



ギニア共和国 (Republic of Guinea)



- ギニアへの援助総額は2014年までに累計約770億円。
- インフラ・農業・水産・教育等の様々な分野において協力を実施。2010年のギニア初の民主的大統領選挙の実施も支援。
- 2014年のエボラ出血熱流行を受けて、財政的・物的緊急支援を実施。日本の企業・大学の先端技術も活用。

国概要

(基礎データ)

- ・面積: 245,857平方キロメートル(本州とほぼ同じ)
- ・人口: 1,260万人(2015年, 世銀)
- ・首都: コナクリ(首都圏人口約166万人)
- ・民族: ブル・マレンケ・スーサー等20余り
- ・言語: 公用語はフランス語, 現地語はブル・マレンケ・スーサー等各民族語
- ・宗教: イスラム教(85%), 伝統的宗教(8%), キリスト教(7%)
- ・政体: 共和制
- ・議会: 国民議会(一院制, 114議席, 任期5年)
- ・GDP: 66.99億ドル(2015年, 世銀)
- ・GNI: 一人あたり 470ドル(2015年, 世銀)
- ・経済成長率: 0.1%(2014年, 世銀)
- ・失業率: 1.8%(2014年)

※特に注がない場合は外務省ホームページをもとに記載。

(略史)

14-15世紀	マリ帝国の版図下
1904年	フランスにより植民地化
1958年	フランスから独立, セク・トゥーレ大統領就任
1984年	セク・トゥーレ大統領死亡 コンテ大佐が軍事クーデタで政権掌握
1993年	大統領選挙で, コンテ大統領選出 (1998年再選, 2003年三選)
2007年	大規模ゼネスト発生, 戒厳令実施
2008年	コンテ大統領死去, カマラ大佐による暫定軍事「政権」が成立
2010年	2回の大統領選挙を経て, アルファ・コンテ大統領就任(2015年再選)

援助実績

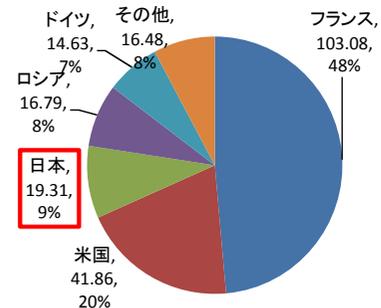
スキーム	額(累計)/人数(延べ)
円借款	160.08億円 (2014年度末時点)
無償資金協力	537.28億円 (2014年度末時点)
技術協力	75.06億円 (2014年度末時点)

出典: ODA国別データブック2015

経済関係

スキーム	金額/人数(直近年)
日本からギニアへの輸出	1,633万円 (2015年, 財務省統計)
ギニアから日本への輸出	13億6,775万円 (2015年, 財務省統計)
日本からギニアへの直接投資	26.99億円 (2015年, 財務省統計)
在ギニア日系企業数	6社 (2014年末時点, 外務省統計)

ギニアへの主要ODA供与国 (2014年, 出典: OECD/DAC, 単位: 百万ドル)



人的つながり

項目	人数(直近年)
ギニアにおける在留邦人数	20人 (2015年10月時点, 外務省統計)
在日ギニア人数	331人 (2015年末, 法務省統計)
ギニアから日本への留学生数	26名 (2015年, (独)JASSO調査)

日本とギニア共和国との協力年表

年代	案件
1972年	駐日ギニア大使館開設
1976年	在ギニア日本国大使館開設
1976年-	京都大学霊長類研究所等により, ギニア東南部ボソウで霊長類の生態を継続的に調査
1979年	ギニアに対する経済協力開始
1983年, 98年	「小規模漁業振興計画」
1988年	「青年スポーツ省に対する柔道・レスリング機材供与計画」
2002年	「コナクリ市小学校建設計画」
2003年	「ケニアン魚市場建設計画」
2006年	「ブルビネ零細漁港拡張計画」
2007年	水産開発アドバイザー派遣
2008年	クーデターによる軍事政権樹立を受けて, 新規二国間協力を停止(2011年8月再開)
2010年	選挙プロセス支援や選挙監視により, ギニア初の民主的大統領選挙の実施に貢献(UNDP連携)
2012年	「国土整備のためのコナクリ市地図作成プロジェクト」開始
2013年5月	在ギニア日本国大使館杯柔道大会の開催
2013年6月	「国道一号線橋梁改修計画」開始
2013年6月	コンデ大統領訪日(TICAD V)
2014年4月-	エボラ出血熱流行に伴い, 対策の様々な緊急支援を実施
2014年9月	国連エボラ出血熱流行対応ハイレベル会合にて, 安倍総理が新規支援を表明
2015年6月	日本がセネガルへ長らく栽培技術向上を支援してきた, 良質なセネガル産米をギニアへ提供(WFP連携)
2015年10月	大統領選挙の円滑な実施のため器材を支援(UNDP連携)
2016年1月	2015年12月のエボラ出血熱終息宣言(WHO)を受け, 中断していた経済協力案件を再開
2016年8月	安倍総理がコンデ大統領とナイロビで会談(TICAD VI)
2016年9月	冷凍機管理技術専門家の派遣

教室不足が著しい都市部で, 11校111教室建設し, 教育用家具や地図, 定規などの教育機材を供与



従来より, スポーツ分野を支援。ギニア柔道連盟と協力して, コナクリ大学において型や護身術のデモンストレーションを実施。在ギニア日本国大使館杯の柔道大会を開催。ギニア柔道連盟に道衣やDVD, 本を贈呈。



医学的な治療・予防法が確立されていないエボラ出血熱の流行を受け, 日本企業開発の医薬品, 迅速検査キット, サーモグラフィカメラなどを緊急支援。従来法より簡便で迅速に診断できる機器の提供, 専門家による使用法研修などを実施。感染防護具や毛布・テントなどの物資も複数回供与。

エボラ出血熱流行後, 約163万人が食糧不足の状況。セネガル産米がWFPの支援米の厳しい審査に合格。セネガル産米は, 日本による長年の技術協力により生産性・品質が向上。



経済協力開始以来, 水産分野を継続的に支援。実施済みケニアン魚市場やブルビネ零細漁港等の水産施設における, 人材育成や機材の修復を実施し, 適切なメンテナンス等の施設能力の向上に貢献。



日本からのエボラ支援へコンデ大統領から謝意が示され, 今後の保健分野に限らない復興支援について協議。

